



筑波大学附属図書館

年報2011_{年度}



目次

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY
ANNUAL REPORT 2011

11

C O N T E N T S



1	1 館長挨拶
2	2 トレンド 日本における電子的資料契約の動向 ～JUSTICE 始動と筑波大学附属図書館の現状～
4	3 フォーカス (2011 年度の特徴的な活動・事業) 1) 東日本大震災からの復旧について (報告) 2) 大塚図書館リニューアル 3) 中央図書館ラーニング・スクエア始動 4) つくばリポジトリと TSA 5) 特別展
14	4 資料紹介 文淵閣四庫全書 電子版 (日本語版)
15	5 職員の活動 1) 出張報告 2) 論文発表・研修における講師等 3) 職員研修会
18	6 トピックス サービス・活動、見学・来訪者、オリエンテーション・講習会、 研修・シンポジウム、会議、その他
20	7 メディアにみる附属図書館 1) 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事 2) 図書館の刊行物
21	8 所蔵・公開資料の記録 出版・放映・Web 上に掲載された所蔵・公開資料
22	9 附属図書館ボランティアの活動
23	10 組織図・歴代館長
24	11 統 計

館長挨拶

中央図書館 エントランス



筑波大学附属図書館長

波多野 澄雄

災後の図書館に期待する

「筑波大学附属図書館年報2011」をお届けします。

2011年度は、筑波大学、そして附属図書館としても東日本大震災からの復旧という大仕事から始まりました。また、この1年は、日本全体にとっても震災からの復旧・復興そして、その後の未来を考える年となりました。そんな折、奇しくも筑波大学附属図書館は、2011年9月より2012年7月まで、国公私立大学図書館協力委員会の委員長館となる機会を得、筑波大学附属図書館のみならず、日本の大学図書館全体の問題に関して、取り組むことになりました。今号のフォーカスでは、筑波大学附属図書館の震災についての報告を掲載しておりますので、ここでは、大学図書館全体のお話をさせていただきます。

まず、大学図書館全体で人的被害の報告はありませんでした。他の被害状況は、国立大学図書館では91大学の内、30校以上が大規模な書籍の落下あるいは書架の転倒損壊、建物の損壊等の物的な被害をうけました。公立大学では81校の内20校以上が、私立大学図書館では520校のうち、東日本を中心に200校が同様の被害を受けています。

次に、このような状況の中で大学図書館がどのような活動をしてきたのか国立大学を中心に紹介します。国立大学図書館協会では、協会のホームページが計画停電によりサービスを停止したり、管理する事務局（東京大学附属図書館）が計画停電の対象となる恐れがあったため、急きょ、京都大学附属図書館からの提案により、京都大学附属図書館で震災対応ホームページを立ち上げました。そして、会員館（全国の国立大学図書館および放送大学の附属図書館など）の被害状況の収集に努め、人的被害状況、建物の損壊状況、蔵書の落下状況、図書館の開館状況等について詳細にとりまとめた報告を基に一覧表にしてホームページに掲載しました。

また、被災した大学に所属する教職員、学生等への支援として、各会員館では、図書館サービスを積極的に提供する活動を開始しました。協会ではそれらの情報を集約し、支援サービスをしている情報を一覧できる形でホームページに掲載し広報に努めました。

各図書館では、被災大学の学生・教職員等に各々の所属学生や教職員と同じように施設利用や資料提供できるように支援がおこなわれていました。私立大学図書館協会でも、国立大学と同様に被災大学関係者に対する図書館利用の支援がおこなわれました。

図書館が行った支援の中で特筆すべきサービスは、東京大学附属図書館と京都大学附属図書館で行われた被災地域に属する教員・研究者・医療従事者に対し

ての電子ジャーナル無料提供であります。両大学で契約する電子ジャーナル等がリモートアクセスサービスを通じて無料提供されました。（2011/5/20で終了）もちろん、出版社のご理解とご協力がなければ成し得なかった事ではありますが、地震発生後5日目にサービス提供したその決断と行動力に対して、両大学図書館関係者の方に敬意を表したいと思います。この様に、図書館が連携した形で支援ができたことは、普段の相互利用という利用者サービスのために築き上げたネットワーク（連携）の賜だと感じています。

その一方、課題も浮かび上がりました。電気が止まり、真っ暗になった図書館で、いかに利用者を避難誘導できるのか？また、電気が止まり、電話が通じず、情報が全くつかめない時にどのような判断をするか？ 足りなかった準備・設備・備品など、震災を経験した図書館では、それぞれ今後の対応すべき課題を見出しました。また、今回の東日本大震災をきっかけに、関東大震災、東南海大地震の可能性も大きくなってきたとも言われています。「大地震・大津波は明日にも起こる」という前提で、図書館相互の協力や情報共有を進め、備えを万全にする必要があるといえます。

最後に、今年度限りで定年退職となり、附属図書館長を辞することとなりましたので挨拶を申し上げます。二年間という短い期間ではありましたが、現役として最後の二年間を図書館の皆さんとともに過ごせたことは大変幸せなことでした。図書館長を拝命したとき、いくつか念頭にあった課題がありました。その多くは大震災や時間の制約で解決ができませんでした。それでも大学の教育や研究を取り巻く大きな環境変化のなかで図書館の役割を確認し、将来に向けての羅針盤となるような「筑波大学附属図書館の使命と目標」を作成できたこと、さらに、「学習の場」としての図書館機能の充実、高騰する電子ジャーナルに共同で対応するための「大学図書館コンソーシアム連合」（JUSTICE）の立ち上げ、などが実現し、課題の解決に向けて動き出しています。これらの成果は、両副館長を初め、職員の皆様の協力がなければ到底、なし得ないことでした。

大震災は、「戦後」という言葉にかわり、「災後」という言葉が使われるほど、社会のあらゆる分野に大きなインパクトを与え、人々の価値観を変える出来事でした。そうしたなかでも、本学図書館は、職員・学生・教員の力で、復旧を果たしました。その様な皆様の力を信じ、「災後」の図書館が力強く発展することを確信しております。

二年間ありがとうございました。

（2012年3月31日）

日本における電子的資料契約の動向

～JUSTICE始動と筑波大学附属図書館の現状～

1. 冊子主体から 電子ジャーナル主体へ

学術情報流通の担い手として、紙媒体による冊子から電子媒体による電子ジャーナルへの移行が急速に進み、多くの研究者にとって電子ジャーナルは身近な存在となりました。とくに STM（科学、工学、医学）分野においては、日常的に電子ジャーナルにアクセスして学術情報を入手することが、研究活動にとって不可欠となっています。

わが国では大学図書館の平均購入タイトル数が 1990 年代の前半をピークに急激に減少し始めました。この現象はシリアルズ・クライシスと呼ばれ、米国の大学図書館では 1980 年代に現れ、10 年ほどの時間差でわが国でも同様の状況が起きました。シリアルズ・クライシスとは、学術雑誌の価格が高騰することによって購読者数（主に図書館）が減り、購読料収入が減少することでさらに価格が値上がりするという負の連鎖のことをいいます。

一方、1990 年代の終わり頃に学術情報流通の担い手としての電子ジャーナルが、実験段階から実用段階に入り、学術出版者が購読料を冊子中心から電子ジャーナル中心のビジネスモデルへとシフトさせました。この電子ジャーナル中心のビジネスモデルの出現が、結果的にシリアルズ・クライシスを回避させそれ以前と比べて多くの学術情報へアクセスすることが可能な環境をもたらしました。

2. 電子ジャーナルの契約

電子ジャーナルの契約の特徴は、冊子のように個々のタイトルを購入するのではなく、出版者が刊行する電子ジャーナルをまとめてパッケージ化しそのパッケージを契約するというビジネスモデル（Big Deal）にあります。もちろん電子ジャーナルでも個々のタイトルごとに契約することは可能ですが、その合計金額に一定の上乗せ金額を払えば、すべてのタイトルにアクセスできるというパッケージ契約のほうがはるかにコスト・パフォーマンスが高くなります。

例えば筑波大学における主要なパッケージに対するアクセス統計では、筑波大学が購読している個々のタイトル（購読タイトル）へのアクセスの合計とパッケージ契約によってアクセスできるようになったタイトル（非購読タイトル）へのアクセスの合計はほぼ同じ比率になっています。非購読タイトルへのアクセスのための上乗せ金額は、出版者によって異なりますが購読タイトルの合計金額の概

ね 10%以下です。ただし、パッケージ契約の条件として、契約期間中、値上がりを含む購読金額規模を維持しなければなりません。

3. 電子ジャーナル・コンソーシアム

学術情報流通の媒体が冊子から電子ジャーナルへ移行する過程で、ビジネスモデルの変化とともにもう一つ大きな変化がありました。それは大学図書館の契約交渉の相手が、書店（代理店）から出版者へと変わったことです。冊子を購読している時は、学内の購読希望タイトルを図書館がとりまとめて書店に発注していました。冊子の価格は、出版者が提示している価格に書店の手数料を加えて決まりました。

電子ジャーナルのパッケージ契約は、購読しているタイトル以外のタイトルへのアクセス相当部分の料金や、タイトルの電子部分だけにアクセスする価格、冊子も購読する場合の割引価格といった複雑な要素から構成されています。そういった契約条件について、大学図書館は出版者と直接交渉することになりました。その際、それぞれの大学図書館が個別に出版者と契約条件を交渉することは、大学図書館側にとっても出版者側にとってもメリットはありませんでした。大学図書館側は、新しいビジネスモデルであるパッケージ契約をできるだけ有利なものにするためには、大学図書館がまとめて出版者と交渉したほうがよいと考え、出版者側は複雑な契約条件について個々の大学図書館と交渉することはコストがかかると考えました。

国立大学では、2000 年に国立大学図書館協議会（現在の国立大学図書館協会）の下に電子ジャーナルに関するコンソーシアムを立ち上げ、出版者とのパッケージ契約についての交渉を開始しました。一方、私立大学は 2002 年に有志の大学がコンソーシアムを設立し、その後公立大学も参加して公私立大学図書館コンソーシアム（PULC）となりました。

国立大学のコンソーシアムにしろ公私立大学のコンソーシアムにしろ、わが国の電子ジャーナルに関するコンソーシアムは、出版者との契約条件の交渉は行いますが、実際に出版者と契約するのは個々の大学図書館という形態をとっています。

4. 大学図書館コンソーシアム連合

シリアルズ・クライシスに陥っていた学術情報へのアクセス環境は、電子ジャーナルのコンソーシアムが活動を始め、パッケージ契約が軌

道に乗ると飛躍的に改善されました。コンソーシアムが活動を始めた2000年当時、国立大学図書館の電子ジャーナルの平均タイトル数は500以下でしたが、2003年には4,000、2006年には7,000、2009年には9,000を超えました。

一方、パッケージ契約は一定期間の購読規模維持が条件のため、厳しい財政状況下にある大学図書館にとって契約の継続は大きな負担になってきました。そこで多くの国立大学では、パッケージ契約の維持のために大学全体として共通経費を確保するという考え方を導入するようになりました。これは、電子ジャーナルを教育研究活動を行う上での学術情報基盤として位置づけ、個々の教員の研究費だけではなく大学全体としての財源措置を行うことで、電子ジャーナルを維持していこうというものです。

コンソーシアムそのものも活動開始から10年が経過し、いくつかの課題が生じていました。当初は交渉相手の出版者は限られていましたが、電子ジャーナルが普及するにつれ交渉相手は大幅に増えました。また、国立大学、公私立大学にかかわらず出版者との交渉は、コンソーシアム参加館の一部の館長や大学図書館員のボランティア的な活動に負っていました。このままではコンソーシアム活動を安定的・持続的に維持していくことは困難であるという声が聞かれるようになりました。

国立大学協会や日本学術会議といった大学図書館の外部からも、専任の担当者を置く事務局の必要性や大学の設置母体を越えたコンソーシアムの一体化などの提言が寄せられました。

これらを受けて、2011年4月に従来の国立大学図書館協会コンソーシアムと公私立大学図書館コンソーシアムを統合し、国立情報学研究所内に専任事務局職員3名を配置した大学図書館コンソーシアム連合（略称 JUSTICE）が発足しました。JUSTICE のミッションは、電子的資料の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備であり、対象となる電子的資料にはカレントな電子ジャーナルだけではなくバックファイルやデータベース、人文社会系オンライン資料も含まれます。発足時には国公立大学あわせて486の大学図書館等が参加しました。

5.筑波大学の電子的資料の現状

本学では2009年に「平成21年度以降の電子ジャーナル等の整備方針」を以下のように策定しました。

- ① 大学全体として整備する電子的資料は、これまでの Elsevier, Springer, Wiley, Blackwell, Oxford, Cambridge に加え、Nature 姉妹誌、JSTOR の The Arts & Sciences Collection、EBSCOhost の Business 関係資料を新たに拡充する。
- ② 電子ジャーナル等の学術情報基盤という公共財的性格から、平成21年度から24年度までの値上がり分も含め、

購入財源は大学の共通経費をあてる。

- ③ 大学全体としての整備対象は、電子ジャーナル等の高い共同利用性、アクセシビリティから電子版のみとし、冊子体は必要とする研究科等の責任で購入する。

これにより、電子ジャーナルを本学の学術情報基盤として位置づけ大学全体の経費で整備していくという方針が明確になりました。また、平成23(2011)年度末までに平成25(2013)年度以降の整備方針を検討することになりました。

附属図書館が2011年1月～4月に学内教職員及び学生を対象にアンケートを実施した結果、価格上昇分も含め経費の全額を全学共通経費で整備する現行方式を望む声が高いことがわかりました。また、平成21(2009)年度以降の電子ジャーナル等の利用数は順調に増加していました。

これらを受け平成25(2013)年度から平成27(2015)年度までについても従来の整備方針を維持することになりました。

この間、電子ジャーナルのパッケージ契約については、コンソーシアム活動による値上がり率の抑制といった契約条件の改善や円高傾向により、2009年当時算定していた全学共通経費の額を下回ることになりました。

また、JUSTICE が Springer 社との交渉によって、それまでアクセス可能だった同社の創刊号から1996年までのバックファイルに加えて1999年までタイトル数を増加した上でアクセス可能になり、カレント部分の契約額をフラット化することができました。

さらに JUSTICE による電子的資料のコンソーシアム交渉の結果、電子ジャーナルのバックファイルだけでなく、人文社会系のオンライン資料として、ゴールドスミス・クレイ文庫の電子版である『The Making of Modern World』を大幅な割引価格で購入することができました。

一方、附属図書館は、電子的資料の整備の一環として Nature 姉妹紙のバックファイル部分や Springer 社の e-Book の購入も行いました。

わが国の厳しい財政状況から、毎年一定の値上がりが見込まれるパッケージ契約をいつまで維持できるかわかりません。附属図書館は、JUSTICE を介してパッケージ契約に代わる、できるだけ多くのタイトルにアクセスでき購入金額を財源に応じて選択できる柔軟な新しい契約モデルを検討中です。

(附属図書館副館長／JUSTICE 運営委員会委員長 関川 雅彦)

1. 東日本大震災からの復旧について(報告)

1.はじめに

2011年3月11日(金)に発生した東北地方太平洋沖地震(*地震の正式名称)では、筑波大学附属図書館も大きな打撃を受けました。幸いなことに人的被害がありませんでしたが、施設と資料には甚大な被害がありました。本報告は、被災状況と復旧作業について、多数の資料と職員の証言をもとに、記録としてまとめたものです。

2. 当日(3.11)の様子(中央図書館を中心に)

震災当日の学内は、春季休業が始まって間もない時期でした。また、翌日の3月12日(土)に平成23年度の個別学力検査等(後期日程)を控え、準備のため、在学生の入構が一部制限されており、学内および図書館内の学生数は通常より少ない状態でした。一方、館長はじめ管理職が学外会議に出席のため不在で、組織の指揮系統は万全な態勢とは言い難い状況でした。そして、2011年3月11日(金)14時46分、茨城県つくば市は、震度6弱の地震に見舞われました。

【地震の衝撃】

最初はゆっくりとした揺れでした。長いと感じた時から揺れが激しくなり、建物が軋む程になりました。中央図書館5階にいた職員は、立って居るのが恐く、書架から離れた場所で、揺れが収まるのを待っていました。そのうち、蛍光灯など電気が切れ、図書館内が暗くなりました。書架からは本が飛び出し、書架と書架の間や通路は本で溢れ、瞬間に床は本の山と化しました。2~3分の地震が図書館内を別の風景に変えてしまいました。

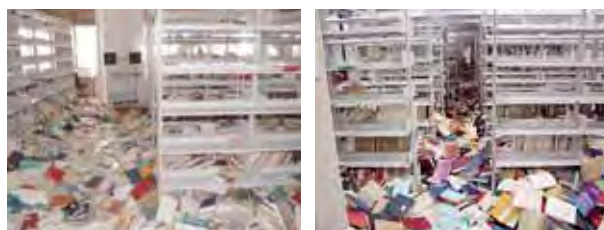
【地震後の初動】

中央図書館では、当時400人ほどが利用中でしたが、幸い多くの人が冷静でした。中央図書館は、非常勤職員も含め56人が出勤していましたので、各階に複数の人員を配置し、避難誘導を行いました。停電で通常の放送設備が使えない状況のため、職員が大きな声で呼びかけながら、各階から本館2階の入退館ゲートを経由し、利用者全員を無事に館外へ避難させることができました。誘導者以外の職員は、本館1階の職員通用口を通り、図書館前の駐車場スペースで待機し、誘導を終えた職員とともに、大学本部の指示に従うことになりました。

職員数の少ない各専門図書館においても、入試準備等で不在の職員もいる中、全員が利用者の安全を最優先に行動し、

無事終わることができました。

復旧や安全確認に時間がかかる事が想定されたため、当分の期間、臨時休館にすることを決定し、3月14日(月)に状況確認や復旧対策に努める事を確認し、18時35分、職員は解散しました。(具体的な状況は表1にまとめました。)



中央図書館4階と3階の状況

時間	震災当日の中央図書館の状況	周辺状況
14:46	照明が消える 館内放送設備は使用不可 図書館サーバダウン →Web情報発信不可能 利用者を館外へ避難誘導 *複数職員が各階で直接誘導 人的被害がないことを確認	地震発生 ライフライン 停止 余震が複数回 続く 建物や路面に 亀裂
15:00頃	図書館内の避難完了を確認 大学本部へ報告・指示を仰ぐ →本部指定の避難場所へ移動 学生は各自帰宅へ 医学図書館の漏水被害報告	固定電話・携帯電話の通話 困難 内線PHSは利用可能
15:40頃	帰宅希望職員に帰宅許可 体芸図書館の支援に職員移動	
16:10頃	図情図書館から状況報告	
16:30頃	職員が2名一組で館内安全確認 ・利用者の有無を再度確認 ・館内の利用者私物を回収 ・被害の大まかな状況確認 臨時休館決定→お知らせ掲示	大きな余震が減る
17:35頃	医学図書館の支援に職員移動 緊急連絡網と週明け勤務を確認 →医学図書館以外は解散	公共交通機関の運休(TX)
18:35頃	医学図書館解散 →図書館の状況を本部へ報告 *大塚図書館(東京)の無事は本部が確認済	

*表中では、体育・芸術図書館を体芸図書館、図書館情報学図書館を図情図書館と記述。

表1 震災当日の状況(中央図書館)

3.被害状況

今回の地震の被害状況は以下のとおりです。

1.施設・設備の主な被害状況

中央図書館	①ガラス製たれ壁の破損、破片の落下。 ②電動集密書架の故障等。
体芸図書館	施設被害が甚大で、立ち入りが危険な状態。 3月15日に災害対策本部により、応急危険度「要注意」の判定。 主な被害は以下のとおり。 ①内部ガラス壁や内壁ボードの破損と破片の落下、亀裂。 ②天井からの空調噴出し口落下、吊下げ蛍光灯の落下、破損。 ③書架の転倒、閲覧機の損傷。
医学図書館	①天井部温水管の破損。 ②一部天井の破損・落下等。
図情図書館	一部固定書架の損傷。

*大塚図書館には大きな被害なし。



書架の倒壊
(体育・芸術図書館)



天井部分の落下
(医学図書館)

2.図書館資料の主な被害状況

蔵書の6割にあたる約150万冊が書架から落下しました。その内、利用に耐えない資料が1万冊を超えました。各図書館の状況は以下のとおりです。

中央図書館	約110万冊が書架から落下。 特に3階～5階の資料は大部分が落下し、動線の確保も困難。
体芸図書館	約19万冊が書架から落下または転倒書架の下敷き。
医学図書館	約11万冊が書架から落下。 天井部温水管の破損で 医学基本図書(約2,000冊)が水濡れ。
図情図書館	約9万冊が書架から落下。
大塚図書館	一部の図書が書架から落下。

*表中では、体育・芸術図書館を体芸図書館、図書館情報学図書館を図情図書館と記述。

4.復旧に向けて

週末の休日中に、大学のホームページ等を通して月曜日以降の勤務に関する大学本部からの連絡があり、3月14日(月)は出勤可能な職員が出勤しました。まず、館内状況の調査を行い、その後の対応策を検討しました。

学内の被害状況についても、少しずつ情報が入ってきました。大学全体として人的災害はありませんでしたが、当時は電気、ガス、水道等のライフラインが復旧しておらず、校内道路・建物の安全確認も済んでいませんでした。また、一部の学生は宿舍から体育館に避難している状況でした。

以下に、図書館の復旧の過程を事項別にまとめました。

【ライフラインの復旧】

電気は3月14日に中央図書館、医学図書館が復旧し、3月16日に体育・芸術図書館が復旧しました。(図書館情報学図書館は停電なし)

上水・中水は、3月17日に中央図書館が復旧しました。体育・芸術図書館は3月30日に復旧しました。(医学図書館、図書館情報学図書館は断水なし。)

【情報発信】

3月14日にTwitter (@tsukubauniv_lib)による情報発信の開始を館内会議で決定し、直ちに被害状況や利用可能なサービスに関する案内を発信しました。3月16日には、必要最低限の情報を凝縮した附属図書館ホームページの臨時版を立ち上げ、低速回線でも閲覧しやすいページでの広報を開始しました。



Twitter や臨時ホームページによる情報発信

【電子サービス再開】

3月17日から電子ジャーナル、データベースを利用できるよう整備しました(一部はリモートアクセスも可能に)。また、避難している学生・教員向けに他大学の図書館により利用の便宜が図られていることについてもホームページで紹介しました。

【少しでも、早い開館を!】

余震が続く中、少しでも早いサービス再開を目指し、職員が図書を書架に戻す復旧作業を続けておりましたが、3月29日より、各館の復旧状況に応じて、利用可能な場所の提供（部分開館）を開始しました（施設被害の甚大な体育・芸術図書館は閉館）。部分開館開始にあわせて、附属図書館ホームページを通常に戻しました。

【復旧作業経過】

3月29日の部分開館の開始以降も順次利用可能な場所を拡大しました。また、4月7日からは夜間開館を、4月9日からは休日開館を再開しました。

各図書館の復旧の経過は以下のとおりです。

中央図書館：

職員による復旧作業により、3月29日から2階と1階の一部スペースのみ開館いたしました。4月1日から、復旧ボランティア（後述）の活動が始まったことにより、作業が大幅に進み、4月4日には本館3階が利用可能になりました。4月11日の震度5弱の余震により、復旧を終えた場所の資料が再落下する事態に見舞われながらも、4月20日には本館4階が利用可能になり、4月22日に本館5階が利用可能になりました。その後、電動集密書架の修理・点検や新館と本館1階・中2階部分の復旧作業を行い、5月9日には、本館1階・中2階、新館3-5階の利用が再開できました。施設部分の補修も同時に行い、5月12日には全てのサービスを再開しました。

体育・芸術図書館：

3月15日に大学の災害対策本部より、応急危険度「要注意」の判定が下り、立入が制限されたため直ぐには復旧作業が開始できませんでした。施設復旧に長期間を要することが判明したことから、資料の利用を可能にするため、4月4日から立ち入りが危険な個所を避けて、職員による資料の復旧作業を開始し、5月16日には安全確認済の2階事務室に臨時窓口を設け、職員による出納方式での資料提供を開始しました。5月23日からは、施設の仮復旧が行われた2階の部分開館も開始しました。その後は、安全を優先して平日の短縮開館でのサービスを行っていましたが、耐震補強工事の実施に伴い、2011年12月14日から閉館を余議なくされました。サービスの再開は、2012年5月21日となる予定です。



空調の通風孔、図書、机、ガラスの損壊(体育・芸術図書館)

医学図書館：

中央図書館の職員も協力して復旧作業を行い、3月29日から天井落下の危険がある場所を立入禁止にして開館しました。水濡れなどにより使用に耐えない資料については、震災復旧経費により、年度末までに修理や代替図書の購入を行いました。



本の散乱と水濡れによる本の被害(医学図書館)

図書館情報学図書館：

中央図書館の職員も協力して復旧作業を行い、3月29日から1階の一部分のみ開館しました。

その後、復旧ボランティア（後述）の参加もあり、順次、利用可能になるスペースが増え、4月8日には全面復旧することができました。



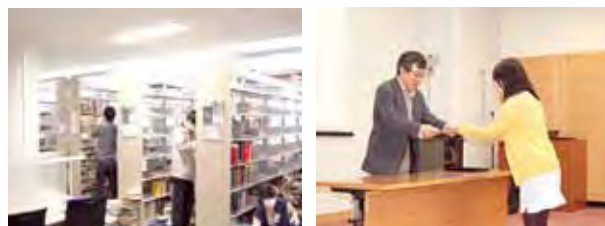
復旧ボランティアの活躍(図書館情報学図書館)

【復旧（落下資料の配架）ボランティア】

Twitter等により、図書館の状況を知った教員や学生から、ボランティアの申し出をいただき、学内の入構制限が解除された4月1日より、復旧作業にご協力いただくこととなりました。4月1日から21日まで、15日間で延べ539名（中央、図書館情報学図書館含む）の皆様がボランティアとして資料復旧にご協力いただきました。

当初、数ヶ月を要すると思われた復旧作業が短期間で終了し

たのは、ひとえにボランティアの皆様のおかげでした。復旧が終了した6月には、附属図書館から感謝状及び粗品を贈呈いたしました。



復旧ボランティアの活躍(中央図書館)

5. 復旧(落下資料の配架)作業の後

書架から落ちた図書を戻す復旧作業は、5月13日までは、全館終了しましたが、職員にとっては、通常の業務とは別の、地味ながらも大変な作業の始まりとなりました。

【資料の修復】

落下で傷んだ資料は、資料復旧の際に抜き取り、再度一冊ずつ状態を確認し、修理を行うか購入するかの選別を行いました。簡易な修理で済む資料は図書館で修理を行うことにしましたが、それ以外については、専門業者への修理発注や買い替えを行いました。(震災復旧経費により賄う事ができました。)

合計で11,430冊の資料の修理もしくは買い替えを行いました。その内訳は買い替えが2,784冊、修理は、一般の図書8,000冊、貴重図書646冊(修理と保存箱作成の合計)でした。

【体育・芸術図書館の出納サービスとILLサービスの無償化】

体育・芸術図書館は、施設復旧工事の実施に伴い、2011年12月14日から閉館する事になりました。そのため、使用ができなくなる資料については、閉館前に改修長期貸出等により、可能な限り研究室等でご利用頂けるようにしました。加えて、閉館により利用できず、他大学からの取寄せ(ILL)が必要な資料については、閉館期間中のILLサービスにかかる費用を無償にしました。合計で142件の依頼があり、複写物の取り寄せ分が88件。図書取り寄せ分は、54件でした。

6. 復旧の先へ

一連の図書館の復旧作業を通して身に沁みた事がひとつあります。それは、「図書館が必要とされている」ことでした。3

月14日に館内の被害状況を確認した時には、一体、いつ頃復旧できるのか?との暗澹たる思いが職員の胸にありました。しかし、約2ヶ月で図書館が再開できたのは、利用者である学生・教員の応援があったからです。

復旧の際に頂いたご助力と応援に対する職員から利用者の皆様への感謝と、震災よりさらに前へと一歩進んだ図書館をお示ししたいとの思いから、企画展「震災後1年 今考えること、これからできること」を実施することになりました。限られたスペースではありましたが、復旧報告のポスター展示、プラズマディスプレイを使った報告資料の表示、震災に関連した図書の展示などを行いました。(展示期間:2012年3月6日~4月30日)

また期間中には、「資料と図書館職員の震災」と題した報告会も開催し(2012年3月19日)、震災復旧に関連した事業の報告と、被災した大学図書館の方をお招きして体験談をお伺いする機会を設けました。学内外から30人にご参加いただきました。貴重な体験を知識として共有することで、今後の図書館あるいは、職員が留意すべき事が再確認されたことと思います。



企画展「震災後1年 今考えること、これからできること」

震災とその後の体験には、それまでの我々の価値観や常識をすべてひっくり返すほどの衝撃がありました。我々は復旧する事ができました。多くの経験をしました。しかし、そこで止まてはいけなく感じています。この経験を、今後の防災やサービスに活かさなくてはなりません。図書館は復旧から先へ進まなくてはならないのです。

*当館の震災についての詳細な報告は、「大学図書館研究 94号(2012.3) p.18-27」もご参照ください。

(企画渉外係長 福井 啓介)

2. 大塚図書館リニューアル

筑波大学東京キャンパス旧大塚校舎の改築工事は、2011年8月11日に竣工しました。大塚図書館は、その直後から図書や備品の移動を行い、9月1日にリニューアル開館しました。改築工事の開始に伴い2010年3月に仮校舎に分散移転してから1年半振りの大塚地区でのサービス再開となりました。リニューアルに合わせて「文京校舎」と改称された建物と共に、新しい大塚図書館について紹介させていただきます。



東京キャンパス文京校舎の鳥瞰写真

1. 新校舎(建物)の概要

旧大塚校舎E館及びG館は、東京教育大学時代の1951(昭和26)年～1964(昭和39)年に建設され、築後50年以上が経過した建物でした。老朽化が激しく、大規模な改修等が必要な状況でしたが、平成21(2009)年度の補正予算により改築工事が行われることとなりました。

放送大学学園東京文京学習センターとの合築建物として建設される事もあり、「社会人の学びの場＝生涯学習の拠点」、「環境や地域との調和」をコンセプトに設計され、最先端の様々な技術も取り入れられています。最初に、導入されている設備や対策を紹介します。

建築概要

所在地 東京都文京区大塚3-29-1

敷地面積 12,997.70㎡

建築面積 3,875.1㎡

延べ面積 21,990㎡

(筑波大学) 16,049㎡

(放送大学) 5,941㎡

構造 鉄骨鉄筋コンクリート

階数 地下1階 地上6階

工期 平成22年3月～平成23年8月

総工事費 (旧校舎解体、外構工事含む)

約63億円

●各階構成

階	構成
屋上階	屋上緑化
6階	講義室 教員研究室 ラウンジ
5階	講義室 教員研究室 ラウンジ
4階	講義室 教員研究室 ラウンジ
3階	講義室 教員研究室 ラウンジ
2階	講義室 教員研究室 ラウンジ
1階	講義室 教員研究室 ラウンジ
地下1階	図書部 ライトコート 大講義室 ホール

文京校舎の建物概要とフロア構成

【省エネ対策を講じた建物・設備】

以下の様な省エネ対策が講じられた、環境に優しい設備となっています。

- 外壁サッシに高遮断熱複層ガラスを使用
(旧施設比約3.7倍の断熱及び約2倍の遮熱性能)
- 外部からの熱の侵入防止策として、断熱材の強化や屋上の緑化、木製ルーバーによる日射対策
- クール＆ヒートチューブを地下10mに設置し、地熱利用で空調機の負担を軽減
- LED照明等の高効率照明器具を採用。
(電気使用量を従来比約40%削減)
- 夜間電力を利用した氷蓄熱型空調機を採用

【バリアフリー対策】

主に視覚障害者などに配慮したバリアフリー対策が実施された、人にもやさしい施設となっています。具体的には、認識しやすい誘導・警告(点字)ブロック、光る誘導ブロック、歩行のすれ違いを考慮した誘導線の敷設、音声案内装置の設置、車椅子使用者の安全な歩道幅の確保、全室の出入り口のオールフラット化などがあげられます。

2. 図書館機能の大幅な改善

改築前の大塚図書館は、入り組んだ建物の奥に位置しており場所がわかりにくく、さらに建物の古さもあって暗いイメージがありました。そうした点がリニューアルにより一新されました。

まず、図書館へのアクセスについては、建物内で最もわかりやすい場所に配置されたことで画期的に改善されました。校舎玄関の広々としたロビーに入ると、すぐに地下1階に向かう広い階段を目にすることができます。そこを下りた正面に大塚図書館があります。



大塚図書館入り口



PCゾーン

館内は、改築前の倍に当たる1,552㎡(放送大学分を含みます)の面積に拡充されており、改築前の約3倍に当たる130席を整備しました。地下とはいえ、東側は天井まで高さ4.5mの全面がガラスサッシとなっており、採光性豊かな広く

A

[illegible]

【開館時間】

【大塚図書館開館時間】 ※（ ）内は変更点

月曜	10:30～18:30
火～金曜	10:00～21:10 (13 時開始から 10 時開始へ)
土曜	10:00～19:50 (13 時開始から 10 時開始へ)
日曜	10:00～18:00 (閉館日から開館日へ)

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY
ANNUAL REPORT 2011

3.中央図書館ラーニング・スクエア始動

1.中央図書館ラーニング・スクエアの概要

「ラーニング・スクエア」とは 2011 年 9 月より開設された、中央図書館本館 2 階の学習支援環境のことです。「インプットからアウトプットまでの知的創造活動と、交流・協働のトータルサポート」をコンセプトに、

- 学生たちが気軽に集い、学び、教え合う学びの空間
- 多様な学習スタイルに応じて姿を変える万華鏡空間
- 学生同士の交流や諸活動の「見える化」により知的好奇心を刺激して、学びの相乗効果を生み出す空間

を目指し、学生サポートデスク（10 月から本格設置）、グループ学習環境、成果発表・企画のスペースを用意することで、学習を軸とした「知」の交わりと創造の空間であることを強くイメージしています。

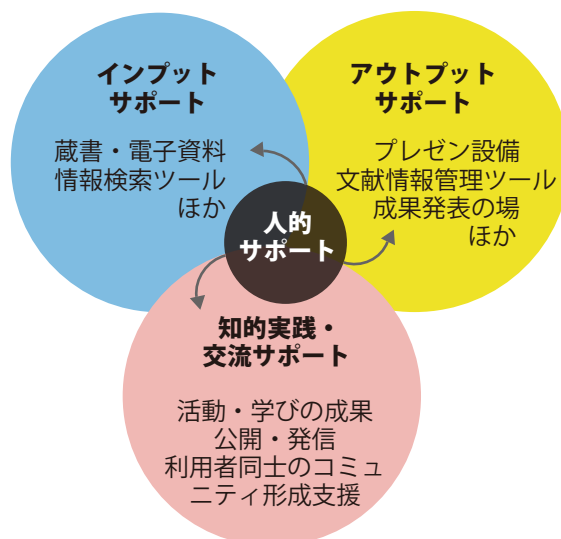
2008 ～ 2009 年度の中央図書館本館 1・2 階の耐震改修工事に際して、ある程度は学習支援環境の設置を想定していました。しかしながら、ラーニング・スクエア設置に際しては大規模な改修工事を行うことができなかったため、極力既存の構造、配置を生かしたレイアウトとしました。結果として、明確なゾーニングができなかったという反省が残りましたが、一方で既存の環境と調和し、境界を意識することなく、誰もが学習支援環境に出入りできるというメリットを生み出しました。

2.ラーニング・スクエアにおける人的学習支援

海外の事例や国内のラーニング・コモンズの先行例の調査、研究を経て合意を得たのは、ラーニング・コモンズ機能を持つ学習支援環境に不可欠なのは、人的学習支援である、ということでした。居心地のよい場所や学習しやすい空間を作っても、それだけでは学習支援に直結しない、と結論付けました。そのため、ラーニング・スクエアでは人的支援（大学院生によるピアサポート）体制を構築し、学習支援空間と学生とを「人」が繋げることで、学習支援を実質的に機能させることを目的としました。

ただ、附属図書館として初めての試みであり、運用のノウハウなども無いことから、まずは 2011 年 5 月から 2 か月間「モニタースタッフ」を雇用して、平日 10-17 時に大学院生が在席する「学生サポートデスク」を試行しました。その実績や経験を踏まえ、在席時間を授業期間の平日 14-19 時に変更の上、10 月から本格稼働となりました。またデスクを担当する大学院生は職名「ラーニング・アドバイザー」としての雇用となり、附属図

書館職員と連携して学習支援に取り組む体制が構築されました。



ラーニング・アドバイザーは、学生サポートデスクでの学習支援を目的とした利用者対応（図書館の使い方、全学計算機の使い方、文献の探し方、レポートの書き方など）が中心の業務ですが、それ以外でもラーニング・アドバイザーが学習支援に繋がるような企画を自主的に考案、運営することも期待されています。



一方で、質の高い学習支援を提供するために、ラーニング・アドバイザーに対する継続的、体系的な研修体制の構築が必要です。そのために、附属図書館職員にも相応のスキル・資質が要求されますが、それらをいかに習得・維持するかが課題となっています。

3.ラーニング・スクエアの構成

ラーニング・スクエアは、以下の四つのゾーンで構成されています。ただし、それぞれ独立に存在するものではなく、互いにオーバーラップしながら共存しています。

●スタディサポートエリア

人的なサポートを提供する空間で、メインカウンター、レファレンスデスク、ボランティアカウンター、そして学生サポートデスクで構成されています。

●クリエイティブエリア

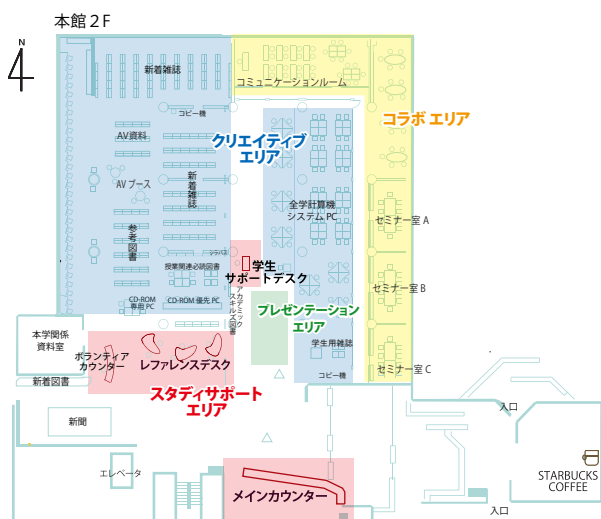
全学計算機や個人学習スペースを中心とした、学習による創造を促進する空間です。附属図書館でも（そしておそらく筑波大学でも）最も利用率が高い空間です。

●コラボエリア

セミナー室やラウンジ、コミュニケーションルームなど、グループで自由にディスカッションや共同学習を行えるような設備を備えた空間です。特にコミュニケーションルームでは、テーブル・イス・ホワイトボードを自由に組み合わせることができ、柔軟な利用に対応しています。

●プレゼンテーションエリア

吹き抜けの下、多くの学生が行き交う一帯を成果発表・展示のための空間として構成しました。学習・研究成果や展示を多くの人の目に触れさせ、異分野の交流や「気づき」を促進します。附属図書館が知識の創造サイクルの舞台であることを象徴する空間でもあります。



4.ラーニング・スクエアでの企画

ラーニング・スクエアでは、筑波大学生の学習支援の一環として、前述のプレゼンテーションエリアを活用し、学生の「気づき」を促し知的刺激を与えるような展示を企画しました。ラーニング・スクエアのオープニングイベントを兼ねた学群学生の研究成果である「先導的研究者体験プログラム」成果発表ポスター展示を皮切りに、学園

祭で行われた「院生プレゼンバトル」ポスターセッションのポスター展示、東日本大震災 1 年を記念した「震災から学ぶ本棚」などを実施し、好評を得ました。



また、ラーニング・スクエアで行われているイベントではありませんが、特筆すべきものとして、授業のある月曜日の朝 8 時から、中央図書館のエントランスで行われる MMI (Monday Morning Institute) が挙げられます。院生プレゼンバトルを企画した TGN (つくば院生ネットワーク) が、異分野交流を目的に始めた「辻プレゼンテーション」で、多くの人が通るという理由から中央図書館エントランスを会場としています。「見える化による知的好奇心の刺激と相乗効果の誘発」という附属図書館の目的に合致しているため、附属図書館が全面的にサポートしている企画です。



2011 年度は、手探りながらも学生、教員と連携しながら、コンセプトを体現しつつラーニング・スクエアのスタートを切れた 1 年でした。2012 年度は、これらの連携や取組をより強化しつつ、また 2011 年度では着手できなかった「ライティング支援」にも一定の成果が出せるよう努めます。

(中央図書館ラーニング・commons検討 WG 嶋田 晋)

4. つくばリポジトリとTSA

1. 2011 年度の概況

2012 年 3 月 31 日現在、つくばリポジトリのコンテンツ数は、26,978 件、年間総アクセス数は 249,420 回でした。2010 年度に 3,182 件であった学術雑誌掲載論文は 4,243 件と 1,000 件以上も登録が増え、学内にオープンアクセスへの理解が広がっていることを感じることができました。

2. NDL によるデジタル化実施の際に著作権処理(「共通許諾」)された学位論文(博士)の登録・公開

2010 年度大規模デジタル化事業の一環として 1991 年から 2000 年に国立国会図書館 (NDL) が受け入れた博士学位論文の電子化が行われました。その際に電子化された論文のうち、著者が特に許諾したものは学位授与と大学に複製が受け渡され、その電子化複製物は全文複写・公衆送信が可能となります (共通許諾)。

つくばリポジトリで共通許諾を得られたものは 167 点で、国立国会図書館からデータの引渡しを受け、JPEG2000 形式から PDF 形式への変換を行い、登録と公開を行いました。

3. TSA (Tsukuba Science Activities)

2011 年度、筑波研究学園都市の知の集積を活かしつつ、イノベーション推進を支援することを目的に、TSA (Tsukuba Science Activities) を開発しました。2008 年度の国立情報学研究所 CSI 委託事業「つくばサイエンスリポジトリ Pilot Project」で得られた知見をもとに、研究学園都市の研究活動をより動的に把握することができるよう再構築したものです。

具体的には学園都市内の複数機関が Web 上で公開している論文情報やイベント情報、Twitter、研究者情報、論文情報、知的資源情報、Web 検索、研究機関情報をワンストップ・サービスで提供するシステムです。産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、筑波大学の機関リポジトリで公開されている論文情報を始めとし、学園都市内の知的資源情報、イベント情報や Twitter といった最近の活動も見えるようになっています。

論文情報は本文に辿り着けることを重視し、機関リポジトリを対象としました。今回事情により対象とすることのできなかった研究学園都市内の機関リポジトリも、2013 年度以降順次追加予定です。

研究者情報は J-GLOBAL WebAPI を利用しています。また知的資源情報はつくば WAN 研究交流委員会 (情報資源共有研究会) のつくば知的資源サイバーモール (TKR) のデータを提供してもらっています。

イベント情報は筑波研究学園都市交流協議会のつくばのイベントカレンダーほか、各機関のイベント情報の RSS を集約して表示しています。イベントがどこで行われているかをより簡単に把握するためにイベント開催地の地図情報にもリンクしています。

Twitter は各機関の公式アカウントをフォローしています。今後学園都市内のアカウントが増えてくれば随時登録してゆきます。

これらの情報は筑波研究学園都市内の各機関を始めとし、複数のシステムと連携させていただくことで実現しています。

2012 年度は試験公開期間とし、システムの改良やコンテンツの追加のための意見を募集します。

4. 茨城県遺跡資料リポジトリ

茨城県遺跡資料リポジトリは全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクトに 2009 年度から参加しています。2011 年度は県内 6 市町村 (城里町、八千代町、稲敷市、常陸大宮市、行方市、土浦市) の遺跡発掘調査報告書 163 冊 (約 19,000 ページ) を電子化し、登録・公開しました。また筑西市からは電子化されたデータを CD-ROM のかたちで寄贈いただき、これを登録・公開しました。

現在は筑波大学が市町村の代行として遺跡発掘調査報告書の登録を行なっていますが、今後はセルフ・アーカイビング的な展開も視野に入れてゆきたいと考えています。

5. 国内学協会への働きかけ～SCPJ プロジェクト3

昨年度に引き続き、国立情報学研究所の CSI 委託事業「オープンアクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメントプロジェクト」(SCPJ プロジェクト) の事業として「学協会著作権ポリシーデータベース (SCPJ データベース)」の調査、機関リポジトリ構築機関を対象とした講習会への講師派遣を行いました。また、学会業務に携わっている中西印刷株式会社 NAC OS 学会事務センターを訪問し、学会出版、著作権、電子ジャーナル等について意見交換を行い、学協会への働きかけの協力を依頼しました。



(電子図書館係長 真中 孝行)

5. 特別展

2011 年度の特別展は、附属図書館と人文社会科学研究科との共催により、「日本人のよんだ漢籍—貴重書と和刻本と—」と題して 9 月 22 日（木）から 10 月 21 日（金）まで中央図書館貴重書展示室で開催しました。本特別展は、人文社会科学研究科文芸・言語専攻の谷口孝介先生の企画立案のもと、附属図書館研究開発室のプロジェクトの一つという位置づけによって、職員 8 名によるワーキンググループが谷口先生とともに実施にあたる体制で行いました。

特別展の会期は、通常学園祭が開催される 10 月に設定していますが、9 月 24 日（土）・25 日（日）に和漢比較文学学会の大会が本学で開催されたことに伴い、通常より前倒しの形となりましたが、学園祭の期間を含むことができ、結果的には例年に近い形で開催することができました。10 月 9 日（日）には谷口先生による講演会を開催しました。

特別展の来場者数は 814 名でしたが、テーマの設定を含め学会連動企画という性格が強いものでした。大会が開催された 24 日・25 日は、大会プログラムの合い間をぬって来場される大会参加の研究者も多く、時間をかけて丁寧に展示をご覧になる方や、2 日間連続して展示を観覧された方も多数おられ、専門家にも好評を得ることができたと思われまます。

本特別展では、平成 22 年度人文社会科学研究科プロジェクト「筑波大学附属図書館所蔵和刻本漢籍の基礎的研究」（代表、清登典子教授）および平成 23 年度人文社会科学研究科プロジェクト「筑波大学附属図書館所蔵和刻本漢籍の体系的調査研究」（代表、清登典子教授）の研究成果を活用していることが図録の凡例に明記されています。また、図録解題は谷口先生や清登先生など 7 名により執筆されていますが、執筆者の中には住吉朋彦慶應義塾大学附属研究所斯道文庫准教授も含まれており、図書館の所蔵資料を対象とした調査研究等をベースに学外の専門家の参画も得た専門的な展示会であったことがわかります。

本特別展については名称「日本人のよんだ漢籍—貴重書と和刻本と—」がよくその内容を表しています。タイトル中の「よんだ」には「読んだ」と「詠んだ」、すなわち「書物」と「うた」という 2 つの意味をこめているため、あえて漢字の表記にはしていません。また、サブタイトル中の「和刻本」によって、「日本での漢籍の出版」と「訓読という独自のシステムで漢籍の意味をとる特徴的な読書の方法」を象徴しており、日本における漢籍の受容の方法を内容とする展示であることを示しています。和漢比較文学学会大会との連動企画にふさわしい内容であるといえます。

このような展示会のコンセプトから、本特別展では従来の展示

会とはやや異なった視点によって展示資料が選ばれています。たとえば『論語』で 5 点、『孝経』で 4 点、『文選』で 3 点、といった形で同じ書名の書物について複数の資料を出展しています。今回展示した資料は、すべて当館所蔵のものですが、このような体系的な展示が可能となったのも、当館の豊富な蔵書があつてこそのもものといえます。

また、本特別展では「鈴木虎雄関係史料」から 4 点を展示しました。これは、中国文学者・漢詩人・歌人として知られる鈴木虎雄の関係史料 746 点からなり、平成 22 年 3 月にご子孫から当館に寄贈されたものです。鈴木虎雄（1878～1963）は、近代日本における中国文学・文化研究（中国学）の創始者の一人として知られており、1961（昭和 36）年に文化勲章を受章しています。虎雄は本学にも縁があり、1905（明治 38）年に本学の前身校である東京高等師範学校の講師の嘱託を受けましたが、1908（明治 41）年に京都帝国大学文科大学助教授に転じ、その後は京都帝大で研究を進めています。また、文学研究のかたわら、豹軒（ひょうけん・漢詩）、葯房（やくぼう・短歌）と号して自らも多くの漢詩や短歌を作っており、本史料中にも膨大な自作の詩文稿が含まれています。本史料の展示公開は今回が初めてですが、研究者が集まる学会連動企画としての展示会でこうした未公表の史料を公開したことは、研究者の注目を集めることとなり、本史料の研究の進展が期待されます。

図書館の WG は例年通り様々な作業を行うとともに、展示会ブログや Twitter による広報のほか、谷口先生による講演会と展示品解説を YouTube で公開しました。展示品解説では谷口先生から観覧者を前に説明する形によって解説をしたいという希望があり、今回は WG のメンバーが解説を聞くという形でビデオ撮影を行いました。また、アンケート、Twitter やブログ等様々なものを活用することにより観覧者とコミュニケーションをとることができました。観覧者からの疑問に応え、そこから一般の方々向けの解説を加えた観覧の葉を作成するなど有効に活用することができたことは今後の展示に生かすことができると思います。



ギャラリートーク

（特別展 WG 主査 篠塚 富士男）

資料紹介

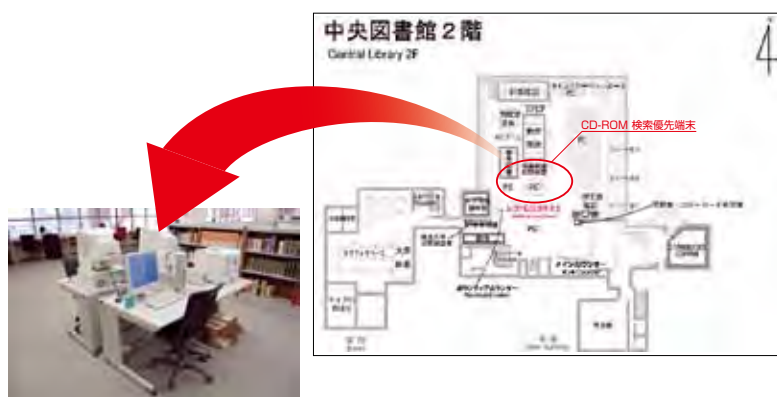
文淵閣四庫全書 電子版【日本語版】(請求記号:082-B89-1~14)

「四庫全書」とは、中国清朝によって編纂された世界最大の叢書です。清の乾隆帝が当代屈指の学者を集め、全国の書物をあまねく収集し、十年近くの歳月を費やして正本が完成しました。

全体を經・史・子・集の四部分類にわけられているため「四庫全書」といいます。「經」はいわゆる四書五經とその研究書、「史」は歴史・地理関係の書、「子」は各種思想家や科学技術関係の書、「集」は詩文や奏議等を含む文集・類書等をいい、哲学・史学・文学のみならず、自然科学・技術の分野を含む伝統中国の学術全般の図書を分類整理する最も効率的な分類方法として活用されています。叢書の中には、多数の有名な書籍、「論語」、「春秋」、「史記」、「孫子兵法」などが収録されています。中央図書館では、新館 3 階「中国大叢書」のコーナーにコレクションとして、図書が叢書の一部が配架されていましたが、

平成 23(2011) 年度の附属図書館人文社会系コレクションとして選定され、この電子版を購入いたしました。これにより図書一冊ずつ開いて調べなくても、正確で迅速な全文検索や分類検索も可能になりました、また使用説明などすべて日本語であり、日本人にとって使いやすくなっています。中国文学、日本文学、歴史学、仏教学、民俗学、言語学などに携わるすべての研究者の方に有意義なツールとなっています。興味ありましたら、是非、ご利用ください。

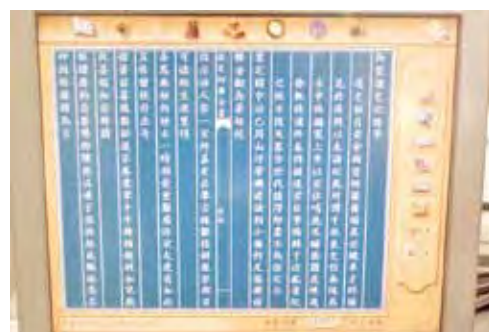
*「文淵閣四庫全書 電子版（日本語版）」は、中央図書館 2 階レファレンスカウンター近くの専用の PC のみでのご利用になります。ご利用の仕方がわからない場合は、レファレンスカウンターでお尋ねください。



「四庫全書」が使えるPC



スタート画面



全文画面



検索画面

(企画渉外係長 福井 啓介)

5 職員の活動

「資料と図書館職員の震災」報告会

1.出張報告(震災関連講演)

1.拓殖大学工学部FD Workshop 講演報告

2011年9月28日に、拓殖大学工学部のFD Workshopに講師として招かれ、「大震災から半年：茨城も被災しましたー筑波大学における対応状況」と題し、東日本大震災に関する講演をしましたので、簡単にご報告します。

これは、本学の大学院を修了し拓殖大学工学部に勤務しておられる先生から「東日本大震災で被災した地域の大学等での経験談、学生等への対応、今後に向けて得られた教訓などについて、地震を実際に体験した立場からの話を聞き、今後の対処の参考としたい」という依頼があり、お受けしたものです。

拓殖大学工学部は八王子市にあり、震災時には震度5弱だったということですが、電車が止まるなどの影響はあったものの、キャンパスには直接的な被害はなかったようです。そこで、このような依頼の趣旨から、茨城県の被災状況→筑波大学の被害→図書館の被害と対応→大学としての課題と復興計画、の順に被災者の立場からお話ししました。FDということで工学部の先生方に対する講演であったため、図書館の問題だけではなく、学内の防災計画の見直しや地域との連携、被災地への支援（復興計画プログラム）といった大学としての対応についてもお話ししましたが、やはりこうした点についていろいろな質問がありました。

3つの視点

○ 時間軸との組み合わせ

- ・安全確保：各自の・利用者の安全確保
余震
 - ・状況把握：ライフライン
学内・地域の状況把握
 - ・情報発信：情報の収集・伝達・発信
-
- ・（学生支援）：経済的支援、メンタルケア

このスライドは、図書館における対応について、「発生直後、被災状況確認、復旧作業、課題・復興計画」という時間軸を設定し、安全確保等の3つの視点をこれに組み合わせて、それぞれの実際の対応を整理したのですが、このモデルを、図書館だけでなく全学の問題に拡大した形で理解していただきました。

他大学の教員を対象とする講演は初めての経験でしたが、被害の実態を聞いて茨城県も被災地であるということに改めて認識した、という感想もいただき、被災の体験を多くの方に共有していただくことの重要性を実感しました。

(情報管理課課長補佐 篠塚 富士男)

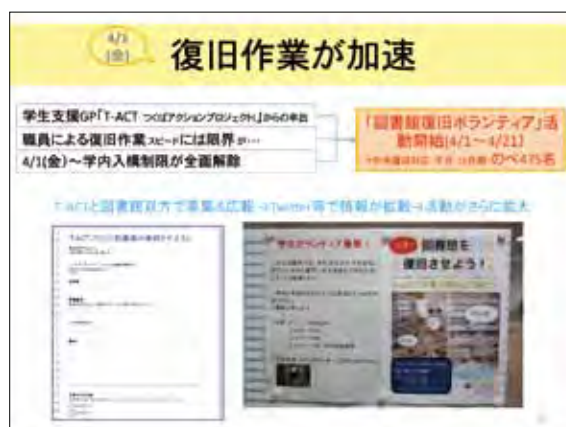
2.第9回群馬県図書館大会での事例発表

2011年11月17日群馬県図書館大会において、東日本大震災における当館の被災状況および復旧過程に関する事例発表をいたしました。

震災当時、私は中央図書館メインカウンターを担当する係に所属しており、当日の避難誘導や館内復旧業務に深く関わっていました。そのため、大会事務局から当館宛に震災事例報告の依頼があった際に、当時の記録をまとめ発表するようにとご指示があり、このたび参加させていただくことになりました。

当日は群馬県前橋市の群馬県立図書館内で、複数の講演や分科会が行われました。私が参加したのは、3つの分科会のうち「震災、図書館でできること」というテーマのもので、立場や被災状況が異なる4図書館の事例報告が行われました。その他の3図書館は、被災公文書の救済活動に携わっている群馬県立文書館、中越地震以来震災関連資料の収集と提供に力を入れている新潟県立図書館、そして被災当事者であると同時に被災者に情報提供をする立場であった福島県立図書館でした。

私は「筑波大学附属図書館の震災被害と復旧への道のり」というタイトルで、当館の被災状況と職員とボランティアによる復旧過程を、スライドや写真を使ってご報告しました。特に、大学内の安全確認や復旧方針に基づいて作業を進めた点や、学生ボランティアの活躍など、公共図書館の場合とは異なる部分を中心にご説明しました。下記スライドはそのうちの1枚であり、復旧ボランティア募集について解説したものです。



この分科会には約50名の方が参加され、質疑応答も含めた3時間を有意義に過ごすことができました。

学外発表は初めての経験だったのですが、多くの方にご指導いただき無事に終えることができました。貴重な機会を下さったことに深く感謝いたします。

(図書サービス係主任 渡邊 朋子)

2.論文発表・研修における講師等

当館職員の論文執筆や、学外の研修・シンポジウム等における講師・事例発表等の活動記録です。

1.執筆活動

嶋田晋. がまじゃんぱーとちゅーりっぷさんの生態 -筑波大学附属図書館でのキャラクター活用事例-. 大学図書館問題研究会誌. 2011, No.34, p.27-34.

→Web でフルテキストを入手できます。

[つくりポジトリ URL](http://hdl.handle.net/2241/118096)

<http://hdl.handle.net/2241/118096>

佐藤聡,高田真吾,徳田聖子,平田完,中山知士,真中孝行,新城靖.キオスク端末のWebアクセス制限を対象にしたシングルサインオンシステムの運用と課題.情報処理学会研究報告.IOT,[インターネット運用技術]2011,2011-IOT-15(1),p1-6

気谷陽子. "CA1763 - 引用分析による蔵書評価 / 気谷陽子 | カレントアウェアネス・ポータル". カレントアウェアネス. 2012-03-20.

[カレントアウェアネス URL](http://current.ndl.go.jp/ca1763)

<http://current.ndl.go.jp/ca1763>

渡邊朋子, 船山桂子, 大和田康代. 東北地方太平洋沖地震における筑波大学附属図書館の被害と復旧作業. 大学図書館研究. 2012, No.94, p.18-27.

→Web でフルテキストを入手できます。

[つくりポジトリ URL](http://hdl.handle.net/2241/118023)

<http://hdl.handle.net/2241/118023>

2.ポスター発表

「オープンアクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメントプロジェクト(SCPJプロジェクト3)」平成22年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系), 2011.6.13, 国立情報学研究所.

→Web でフルテキストを入手できます。

<http://hdl.handle.net/2241/113270>

中山知士ほか職員有志.「67days - 3.11からの復旧」第13回図書館総合展ポスターセッション, 2011.11.19-21, パシフィコ横浜



SCPJ ポスター



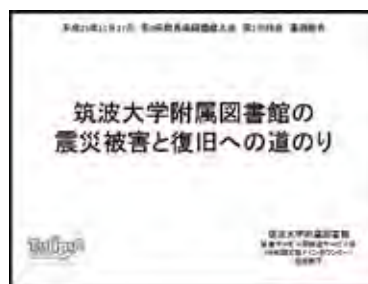
「67days-3.11からの復旧」
図書館総合展にて

3. 講師・事例報告

開催日	氏名	催し名【テーマ・レジュメ・参考URL】
2011.6.13	大澤類里佐	平成22年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系)(国立情報学研究所) 【テーマ】リポジトリの花を咲かそう-SCPJデータベースを育てる-
2011.9.8	中山 知士	平成23年度機関リポジトリ新任担当者研修(広島大学) 【テーマ】みんなでつくろうSCPJ
2011.9.28	篠塚富士男	拓殖大学工学部FD Workshop(拓殖大学) 【テーマ】大震災から半年 筑波大学における対応状況
2010.10.5 2010.11.16	関川 雅彦	平成23年度図書館職員短期研修(京都大学, 東京大学) 【テーマ】図書館の資料構成と電子コンテンツ導入 (講師) 【レジュメ】 http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/librarian/h23/05.pdf
2011.11.17	渡邊 朋子	第9回群馬県図書館大会 第2分科会「震災、図書館でできること」 【テーマ】筑波大学附属図書館の震災被害と復旧への道のり
2011.11.21	中山 知士	平成23年度機関リポジトリ新任担当者研修(NII会場第2回) 【テーマ】著作権概論・実習
2012.3.19	篠塚富士男	資料と図書館職員の震災(筑波大学附属図書館) 【テーマ】筑波大学附属図書館報告 貴重図書の修復について



平成22年度CSI委託事業報告交流会



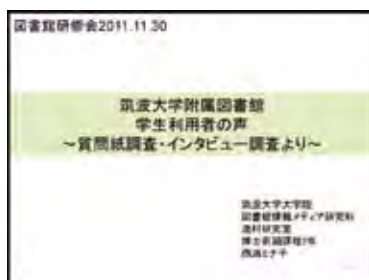
第9回群馬県図書館大会第2文科会

3. 職員研修会

2011年度は、職員の資質向上と経験の共有を図るため計2回行いました。

日時・場所	講師	参加人数
第1回 2011.11.30 15:30-17:00 集会室		
●筑波大学附属図書館の利用者の声 -質問紙調査・インタビュー調査より-	西浦ミナ子(図書館情報メディア研究科 大学院生)	11人
第2回 2012.3.19 13:30-16:00 集会室		
●資料と図書館職員の震災 ・「東日本大震災による被災した貴重図書(洋書)の修復について」 ・「東日本大震災と私図書館」 ・「東日本大震災における被災文化財支援事業の概要と現状」	篠塚富士男(附属図書館) 庄子 隆弘(仙台在住、大学図書館勤務) 松井 敏他(筑波大学芸術系 准教授)	30人

* 第2回は、震災後1年企画の1つとして開催(職員研修会も兼ねる)。



2011年度第1回職員研修会資料と当日写真

6 トピックス

1. サービス・活動

日 付	内 容
2011.5.9	中央図書館耐震改修工事終了、全資料利用再開 中央図書館本館 2 階に学生サポートデスク（6.30 までの試行）、 中央図書館本館 2 階に、アカデミックスキルズ本棚、授業関連必読図書コーナーを設置
2011.6.9	（中央図書館）筑波大学出版会図書コーナー設置
2011.7.23・7.24・7.30・8.1・8.27	（中央図書館）大学説明会のための臨時開館
2011.7.24・7.30	（図情図書館）大学説明会のための臨時開館
2011.8.1 - 2011.8.31	大塚図書館移転作業のため、仮校舎閉館
2011.9.1	大塚図書館リニューアル開館 中央図書館ラーニング・スクエア始動
2011.9.2 - 10.2	（中央図書館）企画展「平成 23 年度第 1 回先導的研究者体験プログラムポスター展示」
2011.9.12 - 2012.3.5	（中央図書館）Monday Morning Institute 実施 : 学生団体 TGN 運営
2011.9.21	台風の影響により全館 15 時で臨時閉館
2011.9.22 - 10.21	平成 23 年度 附属図書館特別展「日本人のよんだ漢籍—貴重書と和刻本と—」開催
2011.10.1	大塚図書館開館時間延長（日曜開館、火～土曜は 10 時から開館）
2011.10.3	中央図書館ラーニング・スクエアに学生サポートデスクを本格設置、ラーニングアドバイザーによるサービス開始
2011.10.8 - 10.10	図書館情報メディア研究科の宇陀・松村研究室との共同企画「近未来書籍空間」を実施。 2 年連続雙峰祭グランプリを受賞
2011.10.9	附属図書館特別展 特別講演会「日本人のよんだ漢籍」開催 （講師：人文社会科学部研究科 谷口孝介 教授）
2011.11.9	（中央図書館）附属図書館ボランティアによる留学生対象おりがみ講習会
2011.10.24 - 2012.1.31	（中央図書館）企画展「男女共同参画の本棚（主催：男女共同参画推進室）」
2011.11.21 - 12.18	（中央図書館）企画展「院生プレゼンバトル 2011 ポスター展」
2011.12.19 - 2012.1.15	（中央図書館）企画展「図書館総合展 2011 出展ポスター展@筑波大学」
2012.1.16 - 2012.3.1	（中央図書館）企画展「平成 23 年度第 2 回先導的研究者体験プログラムポスター展示」
2012.2.3	Web 本棚サービス「ブックログ」上に「学習支援の本棚」を開設
2012.2.9	平成 25 年度以降の電子ジャーナル等の整備方針決定
2012.2.22	（中央図書館）附属図書館ボランティアによる留学生対象おりがみ講習会 電子ブック "Cambridge Companions Online" と "Cambridge Histories Online" を導入
2012.3.6 - 3.30	改修工事のため、図書館情報学図書館ラーニング・コモンズ利用停止
2012.3.6 - (2012.4.30)	（中央図書館）企画展「震災後 1 年 今考えること、これからできること」
2012.3.19	（中央図書館）附属図書館報告会「資料と図書館職員の震災」

2. 見学・来訪者

日 付	内 容
2011.4.25	民主党議員の体育・芸術図書館被災状況視察
2011.4.27	文部科学省の体育・芸術図書館被災状況視察
2011.7.23 - 24・7.30 - 31・8.27	「平成 23 年度受験生のための筑波大学説明会」 2,512 名
2011.10.21	（米国）ピッツバーグ大学 3 名
2011.10.27	（ウズベキスタン）ウズベキスタン大学 14 名
2011.11.7	（ドイツ）ドイツ学術交流会 2 名
2011.12.15	（米国）ハワイ大学 5 名
2012.2.10	（韓国）釜山大学 16 名
2012.3.1	（カザフスタン）国際研修プログラムの学生 11 名



体育・芸術図書館(被災した閲覧室)

3.オリエンテーション・講習会

内 容	実施回数	参加者数
新入生オリエンテーション(学群生)	13回	2,363名
新入生オリエンテーション(院生)	6回	135名
留学生オリエンテーション	10回	173名
フレッシュマンセミナー(各学類等)ほか	28回	1,407名
自由テーマオリエンテーション	14回	114名
論文の探し方講習会	38回	260名
新任教員オリエンテーション	1回	18名
授業「基礎化学実験」の2週分を担当(2011.5)		
授業「知の探検法」の2学期・3学期の各4週分を担当(2011.9 - 2012.2)		

4.研修・シンポジウム

日 付	内 容
2010.7.5 - 7.16	平成23年度大学図書館職員長期研修(受講生36名)
2011.7.25 - 8.5	インターンシップ(筑波大学情報学群 知識情報・図書館学類3名)
2011.12.15	国際インターンシップ(ハワイ大学5名)
2012.2.10	国際インターンシップ(釜山大学15名)

5.会 議

日 付	内 容
2011.4.26	附属図書館研究開発室運営会議
2011.5.26・7.26・9.29 2012.2.28・3.22	附属図書館運営委員会
2011.7.25・9.22・2012.2.22	附属図書館収書専門委員会
2011.6.6・12.6	附属図書館ボランティア専門委員会
2011.6.17・9.7	放送大学と筑波大学の合築に関する図書館WG
2012.2.29	東京キャンパス文京校舎施設運営協議会
2011.12.2	東京キャンパス文京校舎施設運営連絡会・協議会

6.その他

日 付	内 容
2011.4.1 - 4.22(図情は4.8)	図書館復旧ボランティアによる落下図書配架作業(中央・図情)
2011.5.16	体育・芸術図書館を除いた全館で図書館サービスを再開 体育・芸術図書館事務室に臨時窓口を設置し、納方式により図書の貸出サービスを再開
2011.5.23	体育・芸術図書館2階部分の仮復旧に伴い、平日9時-17時で部分開館を開始
2011.5.30	図書館復旧ボランティアへの感謝状贈呈式(中央)
2011.6.2・6.3	図書館復旧ボランティアへの感謝状贈呈式(図情)
2011.8.1 - (2012.7.31 予定)	筑波大学附属図書館が日本図書館協会大学図書館部会長館に就任
2011.9.1 - (2012.7.31 予定)	筑波大学附属図書館が国公立大学図書館協力委員会委員長館に就任
2011.11.14 - 12.9	体育・芸術図書館の震災復旧工事に伴う長期貸出実施
2011.12.14 - (2012.5.20 予定)	震災復旧工事のため、体育・芸術図書館閉館 震災復旧工事に伴う資料の取り寄せ(ILL)無償化措置
2011.12.8	第71回国公立大学図書館協力委員会を開催(筑波大学東京キャンパス文京校舎)
2011.12.16	体育・芸術図書館新着雑誌が中央図書館で利用可能
2012.1.17	体育・芸術図書館所蔵の雑誌バックナンバー(一部)が中央図書館で利用可能に
2012.2.6 - 3.30	図書館情報学図書館 ラーニング・コモンズ拡張工事、電動書架設置工事
2012.3.12	中央図書館A書庫別置の体芸図書館雑誌バックナンバー利用停止

メディアにみる附属図書館

1. 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日付	掲載元	メディア	掲載内容
2011.4.12	カレントアウェアネス-R http://current.ndl.go.jp	web	筑波大学附属図書館、震災による被害状況の写真を公開 http://current.ndl.go.jp/node/17978
2011.4.25	筑波大学新聞 第292号	新聞	1面 東日本大震災 本学でも震度6弱を記録(体芸図書館の写真) 13面 東日本大震災 図書館ボランティア
2011.4.26	とれたてワイドいばらき ニュースワイド茨城 など (いずれもNHK水戸)	テレビ	体育・芸術図書館 被災状況
2011.4.29	朝日新聞 朝刊-茨城版-	新聞	地域面 筑波大学の震災による被害総額70億円 世界最先端設備も大破(図書館被災状況掲載)
2011.4.29	毎日新聞 朝刊-茨城版-	新聞	地域面 筑波大学の震災による被害総額70億円 世界最先端設備も大破(図書館被災状況掲載)
2011.4.29	茨城新聞 朝刊	新聞	社会面 筑波大学の震災による被害総額70億円 世界最先端設備も大破(図書館被災状況掲載)
2011.4.30	常陽新聞 朝刊	新聞	3面 大学新聞から 東日本大震災、筑波キャンパスにも被害 卒業式中止は開学以来初 平成23年度「青空の下で」開催(図書館被災状況掲載)
2011.5.7	東京新聞 朝刊-茨城版-	新聞	地域面 筑波大学の震災による被害総額70億円 世界最先端設備も大破(図書館被災状況掲載)
2011.5.8	茨城新聞 朝刊	新聞	総合面 筑波大学の震災による被害総額70億円 世界最先端設備も大破(図書館被災状況掲載)
2011.5.27	とれたてワイドいばらき ニュースワイド茨城 (いずれもNHK水戸)	テレビ	体育・芸術図書館 被災状況
2011.8.9	カレントアウェアネス-R http://current.ndl.go.jp	web	筑波大学附属図書館、蔵書検索システムに検索語ログを利用した「キーワード候補表示機能」を追加 http://current.ndl.go.jp/node/18841
2012.1	新しい図書館 Vol.22	機関誌	筑波大学大塚図書館(紹介記事)
2012.2.3	カレントアウェアネス-R http://current.ndl.go.jp	web	筑波大学附属図書館、ブックログを利用した「学習支援の本棚」を公開 http://current.ndl.go.jp/node/20084

2. 図書館の刊行物

筑波大学附属図書館年報2010年度

平成23年度筑波大学附属図書館特別展
日本人のよんだ漢籍 ～貴重書と和刻本と～ (図録)

Prism (Practical Information for your Serendipity and Mind)

No.28 2011.5.9	学生サポートデスク誕生 5/9-6/30(中央図書館)
No.29 2011.5.11	Twitterウィジェットを追加してみよう!(Tulipsの活用法シリーズ7)
No.30 2011.6.14	学生サポートデスクスタッフ大募集
No.31 2011.6.28	授業関連必読図書ってなんだろう?
No.32 2011.8.11	お気に入りの場所を見つけよう!(中央図書館編)
No.33 2011.9.20	中央図書館本館2F☆ラーニング・スクエア始動!
No.34 2011.11.2	近未来書籍空間 2年連続雙峰祭グランプリを獲得!
No.35(J/E) 2011.11.11	ラーニング・アドバイザー紹介!
No.36 2011.11.28	ラーニング・アドバイザーお薦めの1冊
No.37 2012.2.8	ラーニング・スクエア発 学習支援の本棚☆ブックログ START

筑波大学附属図書館概要 2012

筑波大学附属図書館利用案内2012



出版・放映・Web上に掲載された所蔵・公開資料

日付	内容	資料種別	資料名	請求記号	資料ID	掲載書名等
2011.4.11	出版	和装古書	往昔越後國之圖	ネ040-169	10076904133	「絵図学入門」東京大学出版会 2011.7
			應永丁酉大阪地圖	ネ040-113	10076132008	
4.19	出版	貴重	江君紀行 兌	ネ308-10	10076701362	「週刊江戸」68号 (株)デアゴスティーニ・ジャパン 2011.5.2
7.8	出版	貴重書	新刻全像三宝太監西洋記通俗演義 巻之12	ル385-15	10076713179	「馬琴と書物」八木書店 2011.8
7.20	出版	貴重書	Relacion de un prodigioso milagro	198.221-B39	10079323976	「日本史リブレット人 44 フランシスコザビエル」山川出版社 2011.9
8.4	放映	和装古書	日本三代実録	ヨ250-24	10076851098 ほか	「情報プレゼンターとくダネ! (フジテレビ)」 2011.08.26 放映
8.22	出版	貴重書	Compendio delle heroiche, et gloriose attioni, et santa vita di Papa Greg. XIII.	198.221-B39	10079324032	「週刊戦国武将データファイル」77号 (株)デアゴスティーニ・ジャパン 2011.11.15
8.25	出版	和装古書	房川船橋勤番繪圖ほか	ヨ150-161 ほか	10076879831 ほか	企画展「日光東照宮と將軍社参」図録 2011.10.8-11.23 江戸東京博物館にて開催
9.5	放映	貴重書	鯨絵 [9] ほか	726.1-N47	10084019129 ほか	「Emorning (テレビ東京)」 2011.9.1
9.5	出版	和装古書	浅草御蔵前邊圖 ほか	ネ040-91 ほか	10076904441 ほか	「週刊江戸」86号 (株)デアゴスティーニ・ジャパン 2011.9.6
9.12	出版	和装古書	學校技藝雙六 ほか	ヘ950-宮11 ほか	10088015215 ほか	「日本映画の誕生」森話社 2011.10
10.18	出版	和装古書	外櫻田永田町繪圖	ネ040-91	10076904459	「週刊江戸」95号 (株)デアゴスティーニ・ジャパン 2011.11.8
11.21	出版	和装古書	浪華往古図	ネ040-597	10076904336	「[「地図史料学の構築」の新展開 第1-2部] 東京大学史料編纂所 2012.2
12.5	出版	和装古書	浪華日記 乾	ヨ216-273	10076746266	「新修大阪市史 史料編第7巻」 2012.1.25
12.5	出版(翻刻)	和装古書	麗氣記私鈔	ハ240-80	10076864452	「中世学僧の神道 / 鈴木英一」勉成出版 2012.8 予定
12.5	出版	貴重書	鯨絵 [15] ほか	726.1-N47	100840019135 ほか	「3.11 を忘れない (小・中学校版防災教育補助教材)」東京都教育委員会 2012.1.20
12.7	出版	和装古書	野馬臺	ル185-797	10088015805	「象徴天皇の源流 / 今谷明」新人物往来社 2011.12
2012.1.16	出版	貴重書	鯨絵 [13]	726.1-N47	10084019133	「歴史としての3・11」河出書房新社 2012.2
2.10	出版	和装古書	児学教導単語之図	ヘ950-宮203	10088015209	「近現代と神奈川 改訂版」神奈川県教育委員会 2012.3
2.21	出版	貴重書	鯨絵 [14]	726.1-N47	10084019134	「つながりの精神史 / 東島誠」講談社 2012.3
2.21	出版	貴重書	住吉物語絵巻	ル120-364-上	10076132005	「週刊絵巻で楽しむ源氏物語五十四帖」25号 朝日新聞出版 2012
2.21	出版	本学	東京師範学校一覧	ホ190-294	10076106100	「蛍の光と稲垣千穎 / 中西光雄」ぎょうせい 2012.2
3.13	出版	和装古書	新鐫笑林廣記	ル380-39	10076744762 ほか	「中国笑話集と日本文学・日本語との関連に関する研究 / 島田大助」豊橋創造大学 (科学研究費補助金研究成果報告書) 2012.3
3.26	出版	和装古書	永代御江戸繪圖	ネ040-647	10076904357	「図説大江戸犯科帳 決定版」学研パブリッシング 2012

※全70件から抜粋したものです。

附属図書館ボランティアの活動

1. 平成23(2011)年度ボランティア

●男性：11 ●女性：39 計50名

〈年齢内訳〉

●30代：2 ●40代：4 ●50代：17

●60代：20 ●70代：7

●新規活動者 6名、●更新活動者 44名

2. 留学生対応の充実

英語、中国語、韓国語などで対応できるボランティアが新たに6名参加し、留学生や海外からの来訪者への対応が充実しました。

3. 活動の中止と震災復旧作業への協力

震災の影響で、ボランティア活動は3/12～4/18まで中止となりました。その間に有志でシェルフリーディングを行い、延べ57人が図書館の早期再開に向けて協力しました。

4. 活動統計

1 総合案内

●ボランティアカウンター利用者数 1,512人

(学内者：1,243人 学外者：269人)

●図書館見学案内 30件 1,231人

●対面朗読 114時間

2 利用環境整備

●シェルフリーディング数 4,666連

●不明図書の発見 29冊

●ラベル補修 477冊

●図書修理冊数 1,508冊

(中央図書館：1,235冊 図情図書館：273冊)

3 体芸図書館ポスター整理 54枚

5. 年間行事

1 フォローアップ研修

●業務紹介 11月

●学内見学(医学・図情図書館) 7月

●学内・学外見学(大塚図書館・お茶の水女子大学附属図書館) 11月



大塚図書館
見学

- | | |
|-------------|-----|
| 2 意見交換会 | 9月 |
| 3 ボランティア懇談会 | 10月 |
| 4 ボランティア講演会 | 10月 |



ボランティア懇談会

6. 海外からの見学者

●ボランティアが対応した海外からの見学者

- | | |
|----------------|-----|
| ・ドイツ学術交流会 | 11月 |
| ・浙江省日本視察団(中国) | 12月 |
| ・ハワイ大学インターンシップ | 12月 |
| ・釜山大学インターンシップ | 2月 |

7. 図書修理活動の本格化

中央図書館の修理メンバーが増えるとともに、閉館中の体芸図書館の修理メンバーが10月から中央図書館に移動し、修理活動が本格化しました。

活動をとおして熟練者から技術が伝達され、中央・体芸メンバーの合同打合せ会も開催されて、スキルアップに励んでいます。



7. 図書修理活動の本格化

●図情図書館での図書修理活動

体芸図書館の修理メンバーが、4～9月まで図情図書館において、体芸・図情図書館の震災による破損図書の修理を行いました。これによって図情図書館の震災破損図書の大半は修理が終了しました。

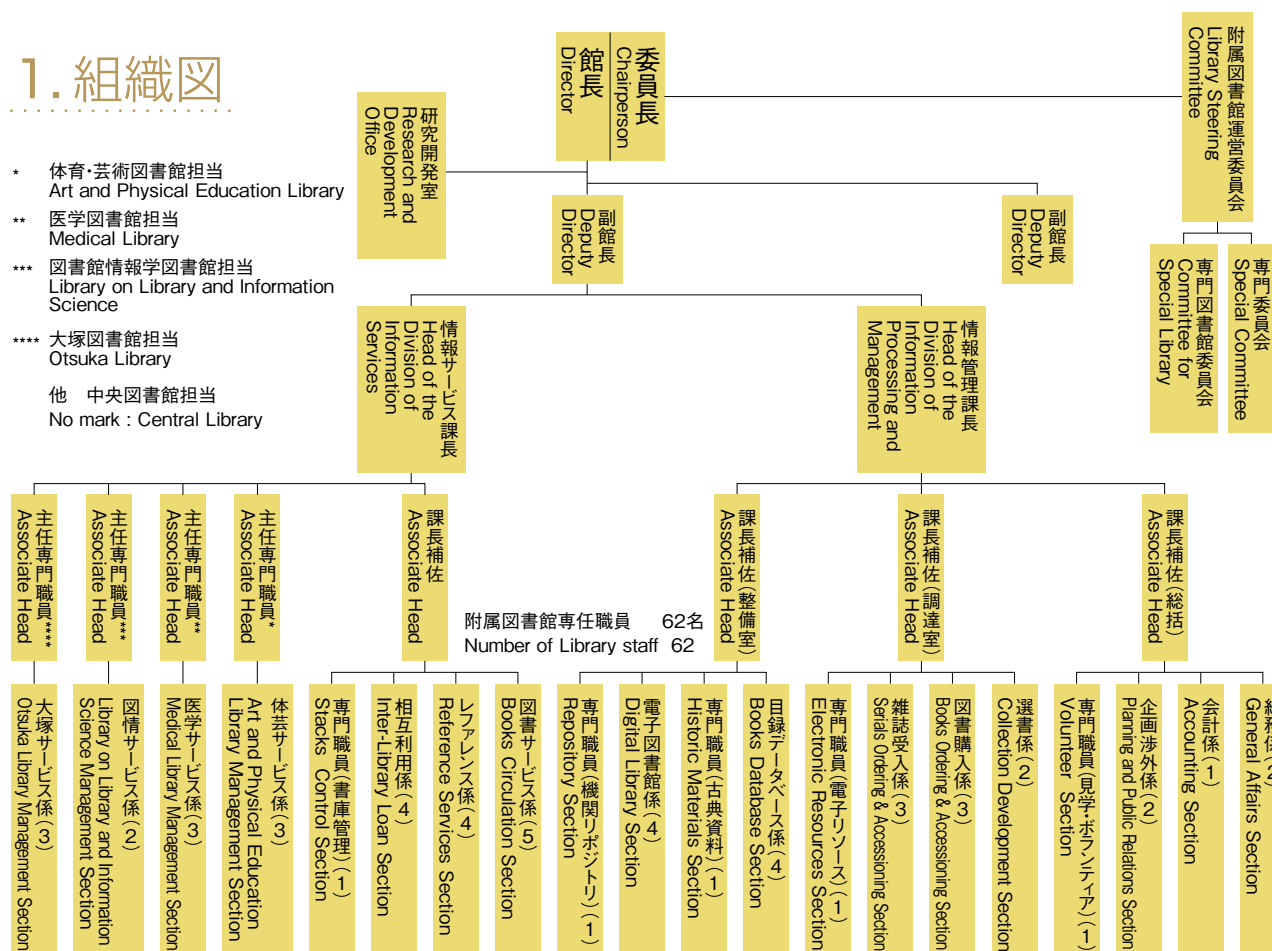
●体芸図書館のポスター整理

体芸図書館のポスター整理を中央図書館で1月から再開しました。震災後整理できなかったポスターの仕分けから始まり、少しずつデータ入力を行っています。改修後の体芸図書館での本格的な活動再開が待たれるところです。

(見学・ボランティア担当専門職員 落合 厚子)

1. 組織図

- * 体育・芸術図書館担当
Art and Physical Education Library
- ** 医学図書館担当
Medical Library
- *** 図書館情報学図書館担当
Library on Library and Information Science
- **** 大塚図書館担当
Otsuka Library
- 他 中央図書館担当
No mark : Central Library



(2011年4月1日現在)

2. 歴代図書館長

	名 前	期 間	備 考
高等師範学校	三宅 米吉	明治32年6月30日 ～ 明治36年9月6日	図書係事務監督
東京高等師範学校	三宅 米吉	明治32年9月7日 ～ 明治44年4月29日	主幹
	松井 簡治	明治44年4月30日 ～ 昭和4年3月31日	主幹
東京文理科大学	松井 簡治	昭和4年4月1日 ～ 昭和7年3月3日	
	諸橋 徹次	昭和7年3月4日 ～ 昭和20年10月3日	
	能勢 朝次	昭和20年10月4日 ～ 昭和24年5月31日	
東京教育大学	能勢 朝次	昭和24年6月1日 ～ 昭和24年8月30日	
	下村寅太郎	昭和24年8月31日 ～ 昭和29年7月15日	
	中西 清	昭和29年7月16日 ～ 昭和31年3月31日	
	熊沢 龍	昭和31年4月1日 ～ 昭和33年3月31日	
	熊沢 龍	昭和33年4月1日 ～ 昭和33年4月30日	事務取扱
	熊沢 龍	昭和33年5月1日 ～ 昭和35年4月30日	
	肥後 和男	昭和35年5月1日 ～ 昭和38年3月31日	
	山崎 宥	昭和38年4月1日 ～ 昭和40年3月31日	
	平塚 直秀	昭和40年4月1日 ～ 昭和42年3月31日	
	酒井 忠夫	昭和42年4月1日 ～ 昭和44年3月31日	
	宮嶋 龍興	昭和44年4月1日 ～ 昭和44年4月27日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和44年4月28日 ～ 昭和46年4月27日	
	橋本 重治	昭和46年4月28日 ～ 昭和47年3月31日	
	武藤 聡雄	昭和47年4月1日 ～ 昭和51年3月31日	
	西谷三四郎	昭和51年4月1日 ～ 昭和53年3月31日	

	名 前	期 間	備 考
筑波大学	三輪 知雄	昭和48年10月1日 昭和49年5月1日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和49年5月1日 ～ 昭和50年4月1日	
	大甕 茂	昭和50年4月2日 ～ 昭和52年4月1日	
	高橋 進	昭和52年4月2日 ～ 昭和54年4月1日	
	宮嶋 龍典	昭和54年4月2日 ～ 昭和54年6月9日	事務取扱
	岡本 敬二	昭和54年6月9日 ～ 昭和56年4月1日	
	高橋 進	昭和56年4月2日 ～ 昭和56年5月1日	事務取扱
	郡司 利男	昭和56年5月1日 ～ 昭和60年3月31日	
	松浦 悦之	昭和60年4月1日 ～ 昭和60年4月3日	事務取扱
	升田 公三	昭和60年4月3日 ～ 昭和62年6月8日	
	柳 重剛	昭和62年6月9日 ～ 平成元年6月8日	
	小川 圭治	平成元年6月9日 ～ 平成3年3月31日	
	新井 敏弘	平成3年4月1日 ～ 平成5年3月31日	
	北原 保雄	平成5年4月1日 ～ 平成9年3月31日	2期
	斎藤 武生	平成9年4月1日 ～ 平成11年3月31日	
	板橋 秀一	平成11年4月1日 ～ 平成13年3月31日	
	山内 芳文	平成13年4月1日 ～ 平成15年3月31日	
	林 史典	平成15年4月1日 ～ 平成16年3月31日	
	植松 貞夫	平成16年4月1日 ～ 平成22年3月31日	3期
	波多野澄雄	平成22年4月1日 ～ 平成24年3月31日	

統計

2011(平成23)年度

利用統計

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
年間開館日数 (日)	平日 238 土・日・祝日 93 合計 331	135 0 135	239 113 352	238 123 361	221 109 330	
入館者数(人)	平日 467,636 (学外者 内数) (23,360) 土・日・祝日 68,628 (学外者 内数) (8,337) 合計 536,264 (学外者 内数) (31,697)	9,475 (194) 0 (0) 9,475 (194)	126,661 (7,402) 35,543 (5,015) 162,204 (12,417)	53,420 (4,477) 9,009 (1,776) 62,429 (6,253)	33,157 (7,343) 20,574 (4,566) 53,731 (11,909)	690,349 (42,776) 133,754 (19,694) 824,103 (62,470)
平均入館者数(人)	平日 1,965 (学外者 内数) (98) 土・日・祝日 738 (学外者 内数) (90) 合計 1,620 (学外者 内数) (96)	70 (1) 70 (1)	530 (31) 315 (44) 461 (35)	224 (19) 73 (14) 173 (17)	150 (33) 189 (42) 163 (36)	
貸出冊数(冊)	学群生 103,777 院生 106,695 教員 28,041 学外者 4,193 その他 549 合計 243,255	5,381 7,515 10,955 202 0 24,053	14,492 5,501 2,738 493 66 23,290	13,487 9,069 2,914 1,209 0 26,679	732 6,795 2,073 703 0 10,303	137,869 135,575 46,721 6,800 615 327,580
貸出利用者数(人)	学群生 44,018 院生 35,263 教員 5,850 学外者 1,992 その他 69 合計 87,192	2,268 2,735 515 103 0 5,621	7,632 2,317 890 222 9 11,070	6,259 3,516 866 600 0 11,241	560 3,412 423 96 0 4,491	60,737 47,243 8,544 3,013 78 119,615
文献複写(コピー) (件)	学外依頼 6,172 学外提供 2,131 合計 8,303	626 220 846	4,377 787 5,164	274 130 404	2,433 146 2,579	13,882 3,414 17,296
相互貸借(図書) (件)	学外借受 1,239 学外貸出 1,766 合計 3,005	30 92 122	56 44 100	147 116 263	205 26 231	1,677 2,044 3,721
レファレンス件数(件)	学生 13,575 教職員 3,662 その他 1,176 合計 18,413	1,810 182 29 2,021	1,993 3,317 112 5,422	1,996 354 366 2,716	6,226 362 354 6,942	25,600 7,877 2,037 35,514
	資料に関するもの 11,570 利用案内・指導 6,774 事実に関するもの 69 合計 18,413	897 1,124 0 2,021	4,761 661 0 5,422	510 2,190 16 2,716	5,209 1,733 0 6,942	22,947 12,482 85 35,514

電子図書館アクセス数

トップページアクセス件数	件
学内	835,821
学外	584,633
合計	1,420,454

つくばリポジトリアクセス件数	件
セッション数	249,420
ページビュー数	749,807

主要な電子ジャーナルアクセス件数(フルテキスト)	件
Elsevier(ScienceDirect)	464,907
Wiley-Blackwell(InterScience)	140,928
Springer(LINK)	97,699
Oxford University Press	27,103
Cambridge University Press	5,298
Nature Publishing Group	121,209

主要な文献情報データベースアクセス件数(サーチ数)	件
Web of Science	144,105
SciFinder	22,746
Journal Citation Reports	9,735
Business Source Premier	9,837
CiNii	799,867
医学中央雑誌	83,376

基盤統計

施設環境

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
建物面積 (m ²)	19,092	3,518	2,793	3,166	1,552	30,121
座席数(席)	1,018	347	349	245	130	2,089
利用者用PC台数(台)	158	71	75	33	14	351

※2012(平成24)年3月31日現在。

図 書

(冊)

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
図書の受入(和洋区分)						
和書	12,119	2,377	2,841	1,798	1,403	20,538
洋書	5,946	422	726	537	721	8,352
合計	18,065	2,799	3,567	2,335	2,124	28,890
(受入区分)						
購入	9,501	1,839	3,049	1,259	725	16,373
寄贈	5,559	611	308	712	1,173	8,363
製本	2,994	347	210	363	224	4,138
その他	11	2	0	1	2	16
合計	18,065	2,799	3,567	2,335	2,124	28,890
蔵書数(和洋区分)						
和書	1,065,688	183,842	90,663	171,688	41,831	1,553,712
洋書	782,455	65,869	80,795	73,031	15,601	1,017,751
合計	1,848,143	249,711	171,458	244,719	57,432	2,571,463

雑 誌

(タイトル)

内 訳	年度受入タイトル数		
	購入	寄贈	計
和雑誌	1,099	6,438	7,537
洋雑誌	1,214	1,041	2,255
合計	2,313	7,479	9,792

電子ジャーナル提供タイトル数

(*有料契約誌のみ)

内 訳	タイトル数
Elsevier(ScienceDirect)	2,131
Springer(LINK)	1,904
Wiley-Blackwell(Wiley Online Library)	1,227
Oxford University Press	172
Cambridge University Press	257
JSTOR	952
Nature Publishing Group	35
その他	13,803
合計	20,481

つくばリポジトリ 累積登録件数

(*2011年度末現在)

内 訳	件 数
学術雑誌掲載論文	4,243
学位論文全文	1,715
学位論文内容・審査の要旨	6,653
紀要論文	12,482
研究成果報告書	1,515
会議発表資料	108
講義資料	10
研究業績目録	23
つくば3Eフォーラム	65
A-LIEP	63
その他(図書)	101
合計	26,978

提供データベース・検索ツール

●契約データベース

データベース名
Web of Science
Journal Citation Reports
SciFinder
Business Source Complete
LexisNexis
SportDiscuss
Japan Knowledge
Westlaw Japan
D1-Law.com
CINAHL
医学中央雑誌WEB
PsycINFO
ProQuest Central
ProQuest Dissertations & Thesis
OECD iLibrary
AIDE(アジア経済研究所アーカイブ)
英国議会資料
Books in Print
CiNii
Books in Print
Ulrich
官報
JDream II
Powder Diffraction File
MLA International Bibliography
Conference Proceedings Citation Index

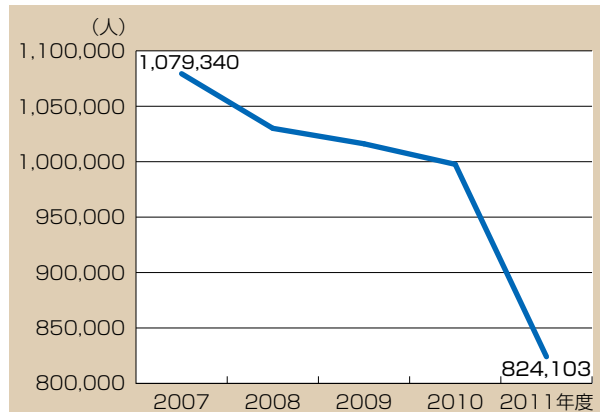
●学外への公開・発信

公開・提供内容
PPRBASE 捕食・寄生昆虫データベース
沖縄歴史文献データベース
応用動物昆虫データベース
日本美術シソーラスデータベース(試験運用版)
展覧会ポスターデータベース
SCPJ(学協会著作権ポリシーDB)
つくばリポジトリ
つくばWANサイエンスリポジトリ
茨城県遺跡資料リポジトリ

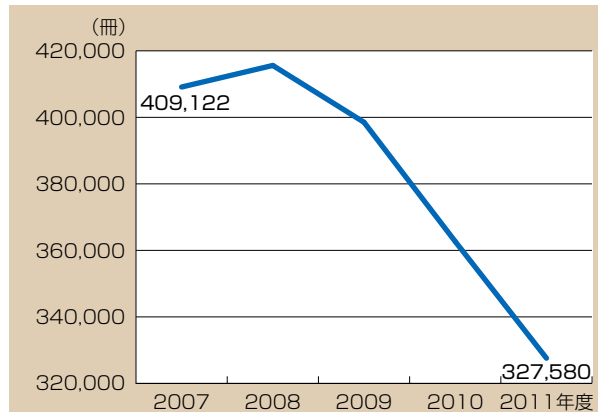
推移と分析

利用サービスの推移

●入館者数



●貸出冊数

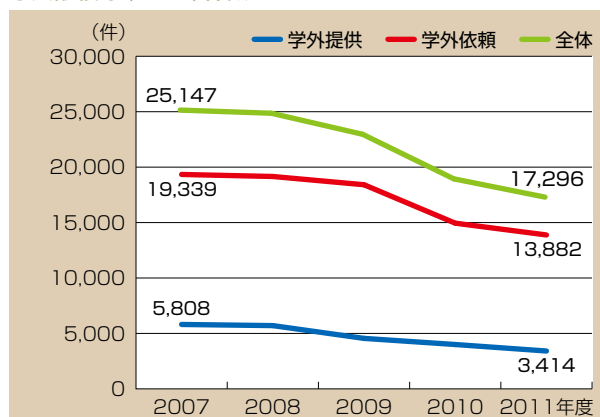


入館者数は、昨年度から全体で173,590人(約17%)減少しています。大きな減少の原因は、東日本大震災による被害のためです。特に体育・芸術図書館が建物としての危険があり、制限された開館時間であったり、工事により閉館をしたため、体育・芸術図書館だけで、前年度より約155,000人(前年比約94%)が減少しました。

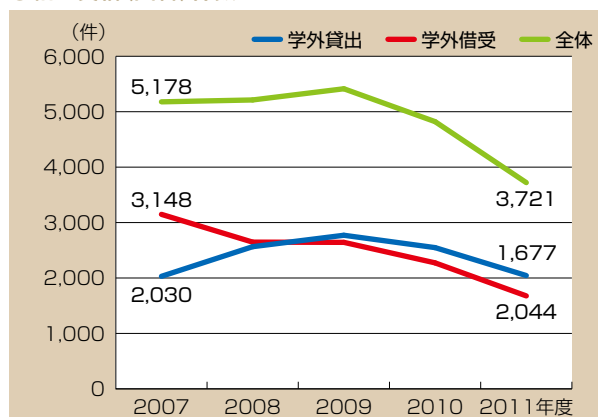
そのほかの館別入館者は、中央図書館が約5%(約30,000人)の減少、医学図書館が約4%の減少、図書館情報学図書館は約9%の減少です。一方、大塚図書館は、リニューアルオープンにより入館者が大きく伸び、年度途中でのリニューアルでしたが、前年度比の約88%の増加というように前年度の約2倍近い入館者数でした。

貸出冊数は、入館者数に伴う形で約35,000冊(約10%)減少しております。これは、昨年度同等の減少率となっております。

●文献複写(コピー)件数



●相互貸借(図書)件数

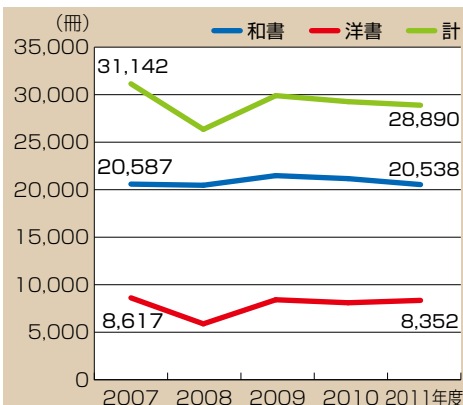


文献複写(コピー)件数は、昨年度と比較して学外への依頼と提供が共に減少しています。特に2010(平成22)年度から、次ページにありますように電子ジャーナルの購読タイトル数の大幅な増加があり、学外への複写依頼数減少の要因として考えられます。

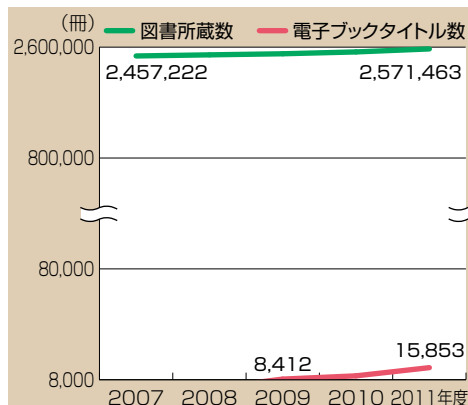
相互貸借(図書)件数も同じように学外への依頼と提供がともに減少しています。

図書資料受入の推移

● 図書受入冊数 一和洋区分一



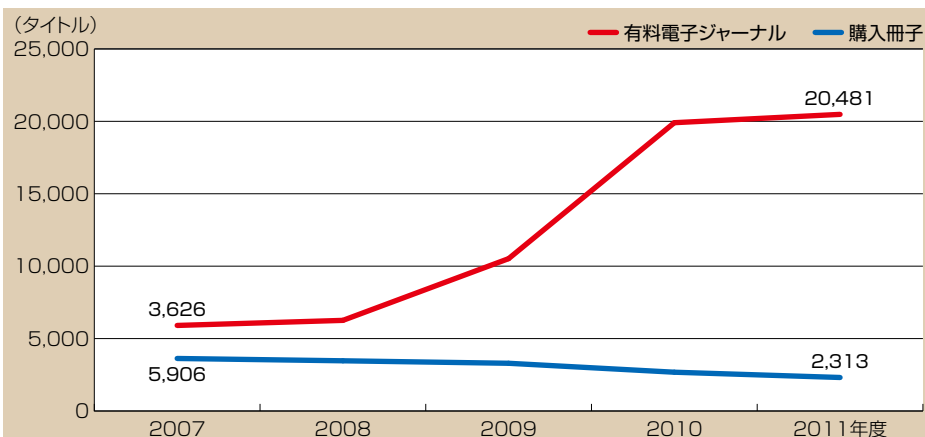
● 図書所蔵数・電子ブックタイトル数



図書資料は、前年度結果より購入分が375冊(約2%)減少しております。近年、電子的資料の拡充のため、電子ブックの購入も増加しており、紙から電子への移行が始まっていると思われます。

(* 注電子ブック導入は2008年度から)

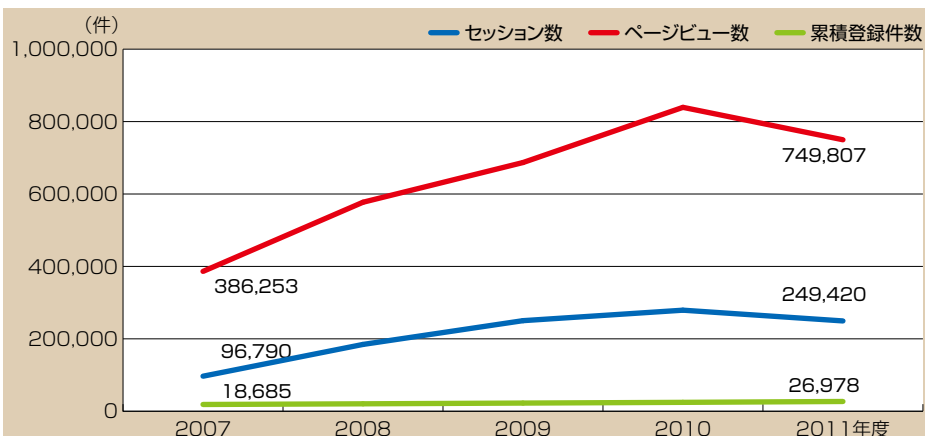
購入冊子と電子ジャーナルタイトル数の推移



2009(平成21)年度以降、本学共通経費による安定的な電子ジャーナルの提供が実現し、電子ジャーナルのタイトル数も増加しています。

(※* 平成21(2009)年度統計より統計数値を整理するに伴い、遡及的に過去の購入冊子数を修正しました)

つくばリポジトリ 登録件数と利用の推移



2011年度は、前年度と比較してセッション数、ページビュー数ともに初めて減少しました。はっきりとした理由は判明しませんが、震災の影響とシステムの不具合の影響が考えられます。2012年度の利用動向を注視して、今後の対応を検討する予定です。

筑波大学附属図書館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL 029-853-2347 FAX 029-853-6052

E-mail voice@tulips.tsukuba.ac.jp

URL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>

ただいま
節電中です。



ご理解とご協力を
よろしくお願い致します。

